

2024 年度

事業報告書

自 2024 年 1 月 1 日

至 2024 年 12 月 31 日

公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

目次

財団の概要（基本理念と事業）	3
公益目的事業1：ハウス運営事業	6
公益目的事業2：ボランティア普及啓発事業	9
公益目的事業3：シェア・ハート・フォー・シック・キッズ事業	12

*本資料における当財団名の略称表記：

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン：DMHC

財団の概要（基本理念と事業）

財団の目的

困難な病気を患っている児童及びその家族を支援するため、必要とされている医療施設の近くに安価で滞在できる施設を設置・運営することによって小児医療や家庭の福祉に貢献し、医療分野や福祉活動等におけるボランティア活動を推進する為の助成活動・啓発活動を行なうことにより、わが国の医療・福祉への支援体制の確立に寄与すること。

財団のミッション

『入院している子どもたちとご家族がよりよい生活をおくれるようにサポートする』

財団ミッションにより下記に寄与する。

- ハウスの建設・運営による患児と家族の支援
- ボランティア文化の醸成
- 医療を社会で支える仕組み作り

ファミリー・センタード・ケアを支える DMHC

子どもを取りまく医療において、患者とその家族の支えとなり多様なニーズを満たしていくために重要視されているのが、ファミリー・センタード・ケア。これは、家族も子どものケアに関わるチームの重要な一員であり、子どものケアや治療方針などの意思決定に参加することを大切にする「家族を中心としたケア」という考え方である。このファミリー・センタード・ケアを実行・推進するためには、社会全体で家族・医療を支える必要があり、その支援の輪においてドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンは非常に大きな役割を担っている。

私たちは、子どもたちに直接医療を提供することがミッションではないが、子どもを看病するご家族に滞り場所ときめ細やかなサポートを提供することを通じて、ファミリー・センタード・ケアをはじめとする効果的な医療の実現に貢献し、病気の子どもとご家族により多くの笑顔をお届けする。

財団の事業とその概要

1. ハウス運営事業

病気の子どもたちとその付き添い家族のための滞在施設および休息施設の設置、管理・運営等に関する事業

<背景と概要>

難病の子どもたちとその家族は、高度医療を受けるためには特定の小児科病院に入院せざるを得ず、日常生活圏から離れた場所での宿泊費その他の不可避な支出を強いられる。長期に

わたる継続的な入院や治療は、所得を圧迫することになり、ましてや低所得の家庭においては、生活困難に直接結びつくことになる。また、乳幼児期の子どもにとって、両親から離れての入院治療を行うことは、その精神の健全な発育の妨げとなり得るものと考えられる。

ハウス運営事業は、難病の子どもたちとその家族の経済的・精神的な負担をやわらげ、日常生活圏から離れても家族が頻りに触れ合うことのできる生活環境を提供することにより、安心して高度医療を受ける機会を与え、児童又は青少年の健全な成長と育成に寄与している事業である。

<主な事業内容>

① ドナルド・マクドナルド・ハウスの開設と運営

- ・ 主に高度医療を提供する小児病院や（参考指標：小児病床 100 床以上、ICU 等 20 床以上）、小児がん拠点病院等に隣接して、入院・通院している子どもたちとその付き添い家族が滞在できる施設を建設・運営する。
- ・ 1 人 1 日 1,000 円の利用料金で経済的負担を軽減し、リラックスした環境の中、ボランティアや他の家族とコミュニケーションをとることで精神的にも安らげる場所を提供する。
- ・ 寄付金とボランティアにより運営する。

② ドナルド・マクドナルド・ファミリールームの開設と運営

- ・ 主に高度医療を提供する小児病院（参考指標：小児病床 100 床未満、ICU 等 20 床未満）の病棟内に設置して、入院中の子どもたちの付き添い家族が休息できる場所を開設・運営する。
- ・ 利用は無料で、院内環境とは異なり、ご家族がリラックスし、食事やおやつを食べたり、昼寝をしたり、院内のストレスから解放される場所を提供する。
- ・ 寄付金とボランティアにより運営する。

2. ボランティア普及啓発事業

病気の子どもたちとその付き添いご家族を支援するボランティアの普及・啓発活動および、ボランティア育成の事業

<背景と概要>

ハウスを必要とする子どもたちとご家族が、「第二のわが家」として安価にかつ安心して利用していただくためのハウス運営は、ボランティアの支援無くしては成り立たない。そのためにはハウスの活動を広く周知し、ハウスの意義に共感し難病の子どもたちとご家族に心を寄せて支援いただけるボランティアを募集し育成していく必要がある。

ボランティア活動はあくまで個人の自発的な意思に基づく自主的な活動であるが、ボランティア個人の自己実現への欲求や社会参加意欲が充足されるだけでなく、その活動の広がりによって、社会貢献や福祉活動等への関心が高まり、地域で小児医療を支える体制づくりや、共に支え合う地域社会づくりの浸透に大きな意義を持つ事業と言える。

<主な事業内容>

① ハウスボランティアの募集および育成

- ・ 全国のハウスでボランティアを募集、ハウスを活動の場として育成する
- ・ ボランティアフォーラムの開催を通じてマインドを育てる
- ・ 企業ボランティアや学生ボランティアを募り、活動の場を広げる
- ・ ボランティアマインドの醸成と啓発：ボランティアの意義（自発的な意思に基づき他人や社会に貢献する行為）と4つの原則（「自主性・主体性」、「社会性・連帯性」、「無償性・無給性」、「創造性・開拓性・先駆性」）

② ボランティア活動の周知

- ・ 病気の子どもたちやそのご家族にとって、自分たちを支援してくれるボランティアの存在を知ること、**「ひとりではない」**支えてくれる方々がいる、と感じてもらえることであり、周知していくことはとても大事なことである。
- ・ ボランティア活動を SNS 等で発信、および情報誌や年間報告書にて紹介する

3. シェア・ハート・フォー・シック・キッズ事業

入院・通院している子どもたちの QOL を向上させ、病気の子どもたちに笑顔を届けることを目的とした事業

<背景と概要>

入院治療を余儀なくされた子どもたちにとって、病棟での体験は非日常的なものであり、なじみのない医療施設や医療スタッフ、苦痛を伴う医療的処置、治療から生じる外見上の変化など、入院する前の日常生活と分断された感覚をもちやすくなる。このことは身体面のみならず、心理社会面において、多くの喪失やその予期を伴うために、怒り、不安、抑うつなどの感情をもたらす。入院治療中は、自分で何かを選択したり、決定することが許されにくい環境であるために、子どもたちのコントロール感が低下したり、無力感が生じることがある。また、集団での活動が制限されやすい病棟生活では、本来子ども同士が関わることで育まれる社会性の獲得が妨げられやすくなる。入院中の子どもたちに対して、喜びとなるギフトを届けることや学習・体験のプログラムを提供することは、子ども同士が関わることで得られやすい感情を体験したり、対人関係の中で自分の言動を調整する力や集団におけるルールを学習するなど、今後の社会生活に求められるスキルの獲得の機会として重要な役割を担う事業となる。

同様に、子どもの看病に付き添う家族に対しても、日常生活を顧みることができる支援をすることは、看病のストレスから解放されリフレッシュすることで子どもの治癒効果が高められると考えられる。

<主な事業内容>

- ・ ハートフルカートとして、入院している患児と付き添い家族を対象に、小さな文具や玩具、日用品などを配布
- ・ 入院している患児と付き添い家族に対する体験活動の提供（オンライン体験プログラム）
- ・ 患児が実際に体験できる活動の提供（参加型の体験プログラム）

公益目的事業 1：ハウス運営事業

病気の子どもたちとその付き添い家族のための滞在施設および休息場所の設置、管理・運営等に関する事業

<事業費>

2024年 431,538,854円 (予算 485,290,000円)

<事業状況>

1. ドナルド・マクドナルド・ハウスの運営

利用家族数は6,496家族と、2023年の5,886家族に対して110.3%と増加しているが、コロナ禍以前の2019年の7,312家族に対しては89%に留まっている。全ハウスの平均稼働率は62%で2023年の58%に対して上昇。

① 全国12のハウスの管理・運営

2024年ハウス別 運営状況 (全国で12ハウス、169部屋を運営)

	部屋数	利用家族	利用人数	宿泊数	稼働率
全ハウス総計	169	6,496	14,100	38,144	62%
せたがやハウス	23	997	2,127	6,832	81%
せんだいハウス	16	870	2,047	2,598	44%
おおさか健都ハウス	20	431	886	3,096	42%
とちぎハウス	10	281	611	1,589	43%
さっぽろハウス	10	498	1,271	1,764	48%
ふちゅうハウス	12	472	1,055	3,375	77%
東大ハウス	12	404	861	2,799	64%
なごやハウス	12	419	896	2,383	54%
ふくおかハウス	21	747	1,621	3,794	49%
神戸ハウス	16	607	1,244	4,947	84%
さいたまハウス	7	411	774	2,302	90%
にいがたハウス	10	359	707	2,665	73%

利用家族数・宿泊数・稼働率の推移（2001～2024年）



② 新規ハウスの開設準備

(ア) しずおかハウス：設計・建設に向けて準備中

(イ) 京都ハウス：開設資金の募金委員会を発足し活動中

③ 既存ハウスの修繕投資

			予算（千円）			実績（千円）		
	ハウス	修繕工事内容	修繕費	固定資産	委託費	修繕費	固定資産	委託費
(ア)	さっぽろ	①電気温水器交換		10,000			6,930	220
		②リフレッシュルーム（あるまま）設置工事		5,200		4,335	977	
(イ)	せんだい	①エレベーター修繕工事	1,500			1,278		
(ウ)	東大	①冷蔵庫の交換およびカーペット張替え、エレベーター補修	4,000			1,679	901	
		②10年点検修繕（火災通報装置交換）		3,000				390
(エ)	せたがや	①居室4部屋修繕（クロス・カーペット交換）および雨漏修繕	10,000			2,255		
		②2026年大規模修繕工事の実施計画立案			3,000	528		
合計			15,500	18,200	3,000	10,075	8,808	610
						36,700	19,493	

2. ドナルド・マクドナルド・ファミリールームの運営

日本初のドナルド・マクドナルド・ファミリールームを東京都府中市にある榊原記念病院内に「ドナルド・マクドナルド・ファミリールーム 榊原記念病院」（以下榊原記念病院 FR）として開設し、2023年12月8日から利用開始。

① ファミリールームの利用状況（2024年）

	利用家族	延べ利用回数	延べ利用時間	平均利用時間
榊原記念病院 FR	1,346 家族	5,943 回	1,804 時間 59 分	18 分 13 秒

② ファミリールーム展開のためのニーズ・ポテンシャルの調査を実施

39の小児医療施設を対象に、遠方から治療のために入院・通院している子どもとご家族のための滞在施設、また入院中の子どもに付き添うご家族のための休息場所についての現状と、どのようなニーズとポテンシャルがあるかの調査を実施。19施設からの回答があり、財団の中長期計画策定に反映する

ハウス・ファミリールーム施設一覧

	ハウス名	開設年月	住所	連携病院
1	せたがやハウス	2001年12月	東京都世田谷区大蔵2-10-10	国立成育医療研究センター
2	せんだいハウス	2003年11月	宮城県仙台市青葉区落合4-5-3	宮城県立こども病院
3	おおさか健都ハウス	2005年10月	大阪府摂津市千里丘新町5-30	国立循環器病研究センター
4	とちぎハウス	2006年9月	栃木県下野市祇園2-36-3	自治医科大学とちぎ子ども医療センター
5	さっぽろハウス	2008年12月	北海道札幌市手稲区金山1条1-2-5	北海道立子ども総合医療・療育センター
6	ふちゅうハウス	2010年3月	東京都府中市武蔵台2-9-2	東京都立小児総合医療センター
7	東大ハウス	2012年1月	東京都文京区本郷7-3-1 東京大学構内	東京大学医学部附属病院
8	なごやハウス	2014年1月	愛知県名古屋市中区昭和区鶴舞町65	名古屋大学医学部附属病院
9	ふくおかハウス	2015年5月	福岡県福岡市東区香椎照葉5-1-2	福岡市立こども病院
10	神戸ハウス	2016年5月	兵庫県神戸市中央区港島南町1-6-7	兵庫県立こども病院
11	さいたまハウス	2016年12月	埼玉県さいたま市中央区新都心1-2	埼玉県立小児医療センター
12	にいがたハウス	2022年10月	新潟県新潟市中央区旭町通一番町756-9	新潟大学医学部総合病院
	ファミリールーム名	開設年月	住所	連携病院
1	榊原ファミリールーム	2023年12月	東京都府中市朝日町3-16-1	榊原記念病院

公益目的事業 2 : ボランティア普及啓発事業

病気の子どもたちとその付き添いご家族を支援するボランティアの普及・啓発活動および、ボランティア育成の事業

<事業費>

2024年 7,163,357円 予算総額 12,311,000円

<事業状況>

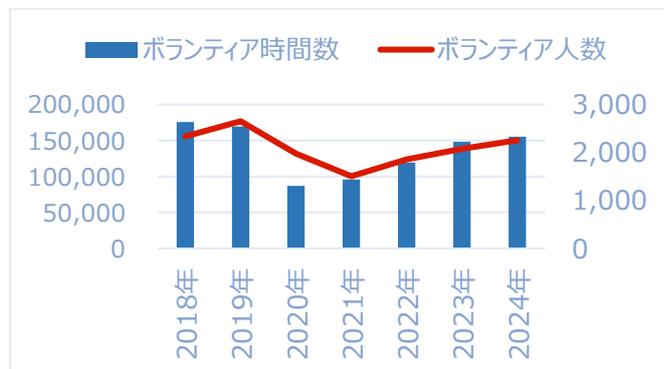
コロナ禍以前に比べてハウスボランティア数は減少しているが、徐々に増加傾向にある、特に若年層（10-20代）の学生ボランティアと、企業・団体によるグループボランティアの活動が活発化している。2024年年間のハウスボランティアとして活動した人数は2,727人で時間数は155,500時間、2024年12月末のボランティア登録者数は2,258名となっている。企業・団体によるグループボランティアの参加団体数は148に及び時間数は9,273時間に及んでいる。

① ボランティアの募集および育成

ハウス別ボランティア活動状況

ハウス名	2024年12月末 登録人数	2023年12月末 登録人数	2024年 年間時間数	2023年 年間時間数
総計	2,258	2,076	155,500	148,598
せたがやハウス	195	196	15,303	13,675
せんだいハウス	142	146	11,766	11,156
おおさか健都ハウス	214	178	14,744	14,713
とちぎハウス	141	147	9,659	9,584
さっぽろハウス	203	169	14,949	15,068
ふちゅうハウス	183	151	12,845	10,384
東大ハウス	226	222	14,349	14,774
なごやハウス	166	154	13,191	12,112
ふくおかハウス	162	131	11,708	11,564
神戸ハウス	153	144	9,480	9,390
さいたまハウス	230	195	13,566	13,299
にいがたハウス	193	225	11,973	12,525
榊原ファミリールーム	50	18	2,132	354

ボランティア時間数・ボランティア人数の推移



企業・団体のグループボランティア活動状況

活動回数	活動人数	活動時間数	具体的内容
148 回 (2023 年 112 回)	3,091 人 (延べ数)	9,273 時間	清掃、ミールプログラム、マッサージ 施術、PC サポート、寄付品

ボランティア募集・育成の活動

- (ア) 全国 12 のハウス毎に、その地域内でハウス周知とボランティア募集活動を展開
募集媒体は、各行政区の広報誌、近隣大学やボランティアサポートセンター、またはハウス毎に SNS での発信により、地域住民や学生に訴求
- (イ) ボランティア説明会・体験会を開催し、財団の目的とミッション、患児や家族に対するボランティア活動の意義や内容を啓発
- (ウ) ボランティア手帳を作成し、ボランティアに対して約 2,500 部を配布（利用者や医療従事者の声、ボランティア心得や活動における原則）
- (エ) ハウス毎に、永年継続ボランティアへの表彰と記念品を授与

② ボランティア活動の周知

- (ア) ハウス毎に SNS やニュースレターでボランティア活動や、各種イベント開催の報告等々を発信
- (イ) 財団ホームページや情報誌、年間報告書（4 月発行）にて情報発信(約 5,000 部)
- (ウ) 各企業や団体からのグループボランティア活動への参加問合せに対して、事務局でオンラインによるオリエンテーションを行った後に、希望ハウスに振り分け、具体的なボランティア活動を展開、その後のフォローアップを実施（2024 年新規に 24 団体、933 時間の活動実績）

③ ボランティアセミナー／ファミリー・センタード・ケア（FCC）セミナーの開催

- (ア) せんだいハウス開設 20 周年を記念し、「ファミリーセンタードケア フォーラム 2024」を開催

10月26日(土) 仙台市「仙台国際センター」にて開催、参加者数は来場者113名、オンラインで155名が参加。小児医療の現状と、その小児医療をボランティアを核として地域で支えることの重要性をメッセージとして発信。

④ **ボランティア促進のため下記の大学とのパートナーシップ協定の締結**

(ア) せんだいハウス：東北福祉大学とのパートナーシップ協定締結

概要と目的：せんだいハウスにおいて、両者の協力によってボランティアをはじめとする地域社会の力を生かして小児医療を地域で支える仕組みを実現することを目指す

(イ) 神戸ハウス：武庫川女子大学・ステイブルとの包括連携協定締結

概要と目的：三者が緊密な相互連携、協力のもと「ドナルド・マクドナルド・ハウス」を通じた病気の子どもとその家族の支援をはじめ、様々な社会課題に挑み、課題解決を担える人材の育成、研究力の向上や地域の発展に寄与する

公益目的事業3：シェア・ハート・フォー・シック・キッズ事業

入院・通院している子どもたちの QOL を向上させ、病気の子どもたちに笑顔を届けることを目的とした事業

<事業費>

2023年 2,027,256円 予算総額 6,861,000円

<事業状況>

- ・ ハートフルカートは、2024年新たに「榊原記念病院ファミリールーム」に導入し、計16病院で展開、年間13,437人をサポート（2023年、10,266人サポート） 病院によってハートフルカートの実施エリア（病棟内、病室、外来）は異なるが、活動は活発化している。実施回数は184回（2023年 165回）
- ・ 各ハウスと支援企業との連携によりオンライン体験プログラムを開発・制作し実施。（飛行機整備工場見学、菓子製造工場見学、乳製品工場見学、学習会のオリジナル教材作成・提供など）
- ・ 支援企業からリアルな体験イベントを提供いただき、寛解の子どもとその家族を招待。（列車に乗車して空港見学、キャンプなどの体験プログラム、職業体験プログラムなど）

施設名	シェア・ハート・フォー・キッズサポート人数	ハートフルカート		ハートフルカート以外の活動		
		サポート人数	実施回数	サポート人数	読み聞かせ/動画配信	体験イベント
せたがやハウス	1,630	1,630	11	0		
せんだいハウス	247	247	8	0		
おおさか健都ハウス	323	208	4	115	60	55
とちぎハウス	559	559	15	0		
さっぽろハウス	650	604	6	46		46
ふちゅうハウス	1,577	1,577	14	0		
東大ハウス	1,706	874	12	832	832	
なごやハウス	514	485	5	29		29
ふくおかハウス	953	953	23	0		
神戸ハウス	2,522	2,522	24	0		
さいたまハウス	2,395	2,085	24	310		
にいがたハウス	743	743	14	0		
榊原FR	34	34	1	0		
事務局	11	0	0	11		11
京都府立医科大	305	305	9			
京都大学	139	139	10			
静岡県立こども病院	472	472	4			
合計	14,780	13,437	184	1343		